



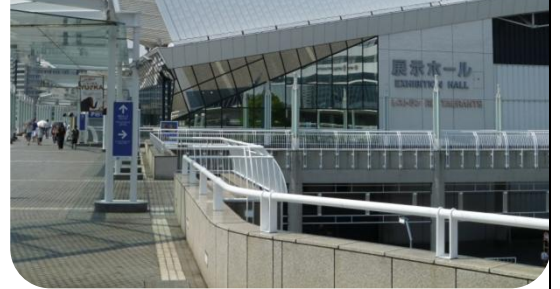
SSHマンスリー

スーパーサイエンスハイスクール通信



夏季特設課外授業関東研修 (3) SSH生徒研究発表会

今回のマンスリーでは、関東研修最終日のSSH生徒研究発表会について紹介します。三日目は、宿泊先の筑波から会場のパシフィコ横浜までバスで移動し、全国のSSH指定校のポスター発表を見学しました。研究発表会には、海外から参加した十八校を含む二百十六校の生徒が集まりました。本校科学部の生徒もポスター発表に参加しています。研究課題は「キシノウエトタテグモの研究3」歴史から分布の局地化の謎にせまる」で、今年で三年目となる研究課



題です。発表生徒たちは、過去三年分のデータを踏まえて、研究成果を伝え、質問に対しても一つ一つ丁寧に返していました。文部科学大臣表彰を受賞したのは、茨城県立水戸第二高等学校で、「アカガエル二種の繁殖期の研究」で、全国と異なる地域性に着目し、長年の研究成果と遺伝子レベルでの解析の結果などが大きく評価されたようです。見学した一年生の生徒たちは、同じ高校生がさまざまなテーマに取り組んでいることを知って、驚いたようですが、真剣に耳を傾け、疑問点などを質問



今回の関東研修では、「国立科学博物館」「JAXA」「SSH生徒研究発表会」で研修を行いました。「貴重な体験ができた。」「将来、見学先のような仕事に就いてみたい」「英語での発表を聴く機会があり、もつと英語を勉強しないといけないと思った。」等、生徒は様々な感想を持ち、進路の選択の参考になったようで、これからは楽しみで

日本学生科学賞 和歌山県知事賞受賞!!

本校科学部の研究「キシノウエトタテグモの研究3」が、第五十七回日本学生科学賞の地方審査（都道府県大会）において、和歌山県知事賞を受賞しました。

日本学生科学賞は、戦後日本の復興期に科学教育の振興を願い、未来の優秀な科学者を生み出すため「国際地球観測年」の一九五七年に創設されました。理科教育に基づき、中学・高校生の公募コンクールとして、国内で最も伝統と権威のあるものです。

地方審査として、都道府県ごとに多くの



キシノウエトタテグモ



中央予備審査に進む代表作品が、原則として中学の部、高校の部で各三点ずつ決められます。今回の受賞は、この地方審査におけるもので、その後、中央予備審査、中央最終審査を経て、内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞等の入賞が決定されます。

今後とも審査が続くので、今後のマンスリーで、良い結果をご報告できる日が来ることを祈っています。

